

「学力向上実行プラン」

- 主体的に学習する力の基になる基礎的・基本的な学力の定着を目指す実践
- めあての明確化や学習の振り返りなどによる、学習意欲・学力向上を目指す授業の実践
- 読書習慣の定着を図る取り組みの充実

学力向上推進員	委員	校長	3学年主任
		特別支援学級主任	4学年主任
		1学年主任	5学年主任
		2学年主任	6学年主任



○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、毎学期末に評価テストを行う等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には真面目に取り組むことができ、基礎的・基本的な知識・技能が身につけてきた。 ●習熟度が上がってはいるが、時間が経つと忘れてしまい定着しきれていないことや個人差が大きいことが課題である。 ●読書習慣が十分に身につけていない。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 四則計算の技能(低90% 中高80%) 漢字の習得率(全学年85%) ・各教科の学習や家庭学習に主体的に取り組むことができる。 (毎日(10分×学年)以上) ・読書習慣を身につけることができる。 (月目標冊数:高3冊,中5冊,低10冊)	・朝のドリル(漢字・計算)を継続し、評価テストを実施する。 ・問題文の意図、グラフ等が示す意味などを正確に読み取らせるため、アンダーラインを入れさせる。 ・家庭学習の状況を確認し、学年通信やホームページ等を活用して家庭にも発信することで、学習習慣の定着を図る。 ・朝の読書タイムや週末読書、親子読書の充実を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見をしっかりと聞き、自分の考えを相手に伝えることができる児童が増えてきた。 ●知識を相互に関連付けて、より深く理解したり、様々な情報から考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたりすることなどに課題がある。	・既習の知識・技能を活用して粘り強く学習課題に取り組むことができる。 ・学習の過程を通して習得した知識・技能が、既習の知識・技能と関連付けられ、他の学習や生活の場に活用することができる。	・ペア学習やグループ学習を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを活用した発表、図や表を用いた話し合い活動に取り組む。 ・発表の仕方を具体的に示す。(理由や考え方まで言う。場に応じた声の大きさで言う。等) ・日記や新聞、作文など、書く活動の充実を図る。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組み、家庭学習や読書にも主体的に取り組むことができる児童が増えてきた。 ●自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの目標を設定し、課題を解決できるよう計画を立て、実践することに課題がある。	・見通しをもって、問題解決に取り組むことができる。 ・課題に対して、話し合い活動等を通して、考えを深めたり解決方法をつくりだしたりすることができる。	・課題意識や達成感、次の問題意識をもたせるために、授業のめあての明確化や、学習後の振り返りを行う。 ・興味をもって学習に取り組む、深い学びにつながるように、発問を工夫する。 ・『自主学習の手引き』を活用する。			

令和6年度学力向上ロードマップ



